

かめのり大学院留学アジア奨学生
月次報告レポート 2019 年 2 月

1. 研究について

2 月はデータの収集と、収集した場面 1 のデータの分析を行なった。

データの収集について、2 月の中旬からカンボジアの大学の学生と連絡を取って、会話のデータ収集を始めた。この前、会話の場面と会話の数を増やしたいと報告したが、データがとても多くなるので、今まで使用している会話はそのまま使用し、もう一つの場面の会話だけ増やすことにした。クメール語のデータは半分くらい取れた。今月も続けてデータを取る予定だ。

分析について場面 1 の勧誘の断り会話の分析を進めたので、具体的に紹介する。本調査のデータより、日本語の勧誘の断り会話には再勧誘を行う会話が 1 組のみ見られた。それは例 1 で示すように、被勧誘者が勧誘者の勧誘に対し、断るのではなく【保留】(5JM10:=焼肉か:)をしたため、日本語母語話者にとって再勧誘を行いやすい状況だと考えられる。

例 1 : JM9=勧誘者、JM10=被勧誘者

《勧誘部》

(省略)

4JM9: 焼肉行かへん?

【勧誘】

5JM10:=焼肉[か:]

【保留】

<再勧誘>

6JM9: [最近全然食べてへんからさすごい行きたいんやけどさ

【現状説明】 【意志表示】 = 【再勧誘】

7JM10:=すまん、でも、えいくらいになりそう?

【謝罪】 【勧誘の詳細情報要求】

8JM9: 焼肉、あ、梅田のところでさ 1500 円くらいあんねんけどさ、

【勧誘の詳細情報提供】

しかし、クメール語の会話では、本調査のほとんどの会話には再勧誘が現れた。日本語の会話と異なり、被勧誘者が明確に断っているにもかかわらず再勧誘を行う。その上、再勧誘を一回だけでなく、何回も繰り返して行っている。例2のように、勧誘者の2KM5「日曜日に焼肉を食べに行く？」という勧誘に対し、被勧誘者は3KM6「焼肉を食べるなんて、一昨日食べたばかりだよ。」と断っているにもかかわらず、勧誘者がその断りをすぐに受諾せず、4KM5「もう一度食べに行こうよ。」と再勧誘を行った。その後、被勧誘者は続けて理由を述べて断っても、勧誘者が再び6KM5「私と一緒に焼肉を食べてから、お母さんを連れて行ってあげたら」と再勧誘を行った。クメール語母語話者にとって、再勧誘は勧誘者が本当に被勧誘者を誘いたいという気持ちを表す方法の一つであるため、勧誘会話を行う際、被勧誘者に断られても本当に誘いたいことを伝えるために再勧誘を行うと考えられる。

その結果により、勧誘会話を行う際、被勧誘者に断られた場合、日本語母語話者は再勧誘を行わず、クメール語母語話者は再勧誘を行う傾向があると言える。

例 2 : KM5=勧誘者、KM6=被勧誘者

《勧誘部》

(省略)

2KM5: ផែនការទិញទៅស៊ីសាច់អាំងហ្គូ?

日曜日に焼肉を食べに行く?

【前提条件の提示】 【勧誘】

3KM6: ស៊ីអីទេហ្គូ(.)អញ្ចូទឹមគាស៊ីហើយម្សិលម្រិះ។

焼肉を食べるなんて、一昨日食べたばかりだよ。

【断り】 【断りの理由説明】

<再勧誘>

4KM5 : សុំទៀតទៅ

もう一度食べに行こうよ。

【再勧誘】

5KM6 : សុំអីទៀតទៅ (.) រួចទៅ ដឹងអាទិត្យហ្នឹងចាំអញ្ជាត្រូវមកពីខេត្តទៀតហ្នឹង ឃើយហើយ(.) ល្ងាចឡើងត្រូវជូនទៅដើរលេង ទៅអីអន់ទៅអីលេង ប្រហែលមិនបានទៅទេ

焼肉を食べるあんで...、もう食べれないよ。それに、今週の日曜日に母が田舎から来るから、夕方イオンとか連れて行かないと...。多分行けない。 【断り】 【断りの理由説明】 【断り】

6KM5 : ចុះហ្នឹងសុំជាមួយអញហើយចាំល្ងាចចាំទៅជួនគាត់ទៅ

私と一緒に焼肉を食べてから、お母さんを連れて行ってあげたら

【再勧誘】

2. 生活について

子どもが4月から小学生になるので、子どもの入学の準備や自分の学会発表の準備などで忙しい日々が続いているが、最近少し暖かくなってきたので、冬がとても苦手な私は少し楽に感じている。